

International Conference on Economic Theory and Policy 実施報告書

日時： 2015年9月22-24日

場所： 明治大学駿河台キャンパスリバティタワーおよびグローバルフロント

国際会議「経済理論と経済政策に関する国際会議」を上記の日程で実施した。この国際会議は、国際学術雑誌 *Review of Keynesian Economics*(エドワード・エルガー社刊)の Co-sponsored conference として開催された。一般報告は 25、基調講演 6、参加者数 125 名の国際会議であった。海外からの参加者の国籍は、イタリア、イギリス、フランス、ドイツ、ブラジル、ロシア、イスラエル、インド、インドネシア、オーストラリア、アメリカなど、である。

基調講演（招待）は、以下の 6 つの講演である。

- 1) Stability of Monetary Union with Outsiders
Hiroya Akiba (Professor, Waseda University)
- 2) The Impact of the Great Recession and Policy Responses in South America
Fernando Ferrari Filho
(Professor, Universidade Federal do Rio Grande do Sul, UFRGS and Researcher, CNPq)
- 3) Financial Crises and Debt Sustainability:
from the Debt Story of the Eighties to the 2007-2015 Crisis
Gianni Vaggi (Professor, University of Pavia)
- 4) Problems of Open-Economy Keynesianism
Jan Toporowsky (Professor, SOAS, University of London)
- 5) Economics without Political Economy: Is the Discipline Undergoing Another Revolution?
Bertram Schefold (Professor, Goethe-Universität Frankfurt)
- 6) The Cambridge Keynesians: The Contribution of Luigi Pasinetti
Pier Luigi Porta (Professor, University of Milan - Bicocca)

いずれも国際的に活躍をされている著名研究者による基調講演であり、学術的にも高い価値がある。この基調講演については、明治大学のユビキタス教育の部署の協力を得て、講演ビデオを準備している。

この国際会議のプログラムの詳細は

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~confyagi/Program.html>

を参照。参加者など会議の詳細は

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~confyagi/September2015.html>

を参照。

今回の国際会議では、ロンドン大学 SOAS やキングストン大学、東ロンドン大学、ポーツマス大学など海外の若手研究者も多数参加・報告を行い、国内研究者との研究交流が盛んに行われた。明治大学からの報告者は、政治経済学部の勝悦子教授、八木尚志教授、商学部の西剛弘専任講師である。大学院生も多数参加した。明治大学の大学院生も多く参加した。なお、千田亮吉教授、勝悦子教授らに司会等での協力を得た。

以 上